

平成30年9月14日(金) No.429

からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校



# 里中だより

川口市立里中学校

川口市里621番地

TEL 048-282-5708

さわやか相談室 284-1010

1年175名 2年179名 3年156名

<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/sato-j/>

## 「自分の知らない世界を知る」 ～自分を磨くために～

校長 高田 晶子

9月8日(土)に里中学校第41回体育祭を実施いたしました。強風の中での開催となりましたが、保護者や地域の皆様のご協力のもと、スムーズに進行することができました。昨年度の節目から新たな里中学校の一步を生徒と共に踏み出すことができたと思います。本当にありがとうございました。



2学期の里中生は、行事で力を伸ばします。自分で頑張ること、仲間と頑張ること、それぞれ「やってみよう」の思いで臨むことを大切にしていきます。中でも学校行事は仲間と頑張る最適の活動だと思います。自分の考えはAでも仲間はBと考え、Cと考える子もいます。そのような時に意見をシャットアウトするのか、なるほどと思って自分の考えを広げていくのか、同級生とのやり取りはとても大切な時間になるのです。つまり、自分の知らない世界を知らせてくれるのが仲間なのです。

このことに関連して、次のお話を読んでみてください。

### 「今日食べるパスタは、ミートソース味か、クリームソース味か」

視覚障害者の難波さんは、自宅でよくスパゲッティを食べるので、レトルトのソースをまとめ買いしています。ソースにはミートソースやクリームソースなどいろいろな味がありますが、すべてのパックが同じ形状をしている。つまり一人暮らしの難波さんがパックの中身を知るには、基本的に開封してみるしかありません。ミートソースが食べたい気分なのに、クリームソースがあたってしまったりする。

はたから考えれば、こうした状況は100%ネガティブなものです。でも、難波さんは、これを単なるネガティブな状況とは受け取りません。食べたい味が出れば当たり、そうでなければハズレ。見方を変えて、それを「くじ引き」や「運試し」のような状況として楽しむのです。「残念というのはあるけど、今日は何かなと思って食べたほうが楽しいですね。心の持って行き方なのかな」「『思い通りにならなくては大損だ』『コントロールしよう』という気持ちさえなければ、楽しめるんじゃないかな」。

つまり難波さんは、見えないことに由来する自由度の減少を、ハプニングの増大としてポジティブに解釈しているのです。「情報」の欠如を、だからこそ生まれる「意味」によってひっくり返しているのです。(出典:「目の見えない人は世界をどう見ているのか」著 伊藤亜紗)

私たちは、よく相手の身になって考えてみようという言葉を使います。ごもつともです。

しかし、とても難しいです。相手の話をよく聞いたり、共に活動したりすることから少しずつ、相手のことも考えられるよう自分の世界が広がっていくのでしょうか。

里中生が行事を終えるたびに自信や鋭気のある表情に変わっていくのも、一理あるのではないのでしょうか。

保護者、地域の皆様、今後の里中生の変身ぶりをどうぞご期待ください。